

高齢者の防災意識に関する研究

—葛飾区と練馬区の高齢者支援施設における防災意識調査—

鈴木 由里子

§ 1 はじめに

近年、日本では大きな地震が相次いで発生しており、今後も大地震が発生する可能性が高いと言われている。防災対策も増えつつあるが、災害弱者とされている高齢者に注目した防災の研究は少ない。そこで高齢者の防災意識に関するプレアンケート調査とヒアリング調査を実施し、問題点の抽出を本研究の目的とした。

§ 2 調査方法

高齢者の防災意識を調査するため、プレアンケートとヒアリング調査を行った。プレアンケート調査は、祖父母と同居、あるいは近所に住んで普段から行き来がある女子大学生に依頼し、孫が祖父母に質問して回答を代筆する方式で行った。ヒアリング調査は葛飾区立石と練馬区豊玉の高齢者支援施設で調査を実施し、自力で施設に通うことができる健康な高齢者を対象としてヒアリング調査を行った。いずれも防災意識、知識、避難行動等に関する内容についてとした。

§ 3 プレアンケートの結果及び考察

大地震が起きた場合にとる行動について質問した結果を表1に示す。大きくは「体を守ろうとする人」「火の元を気にする人」「避難する人」に分けられた。大地震に対して心配すること、または不安に思っていることは、足腰の怪我や視力の低下といった身体的な心配と、物や家具の転倒、火の元や火の気といった物理的な心配とが挙げられた。

次に、防災に関する情報、防災知識を何から得ているかという問の結果を表2に示す。テレビは文字だけではなく、映像と音があるので内容がわかりやすく、理解しやすいので、視力が落ちていたり、目が疲れやすい人には、分厚い読み物よりも受け入れられている。また、広報誌・新聞・雑誌は字の大きさは細かい部分と大きい部分があるが、ページ数も限られており、読み込むというよりは目を通すという感覚で読めるのではないかと考えられる。インターネットは一般には普及しているが、高齢者にはまだまだ浸透していないことがわかった。

表1 大地震が起きた場合にする行動

1	身の安全をまず守る(家具から離れる、座布団を被る)、火の元の確認
2	身の安全、火の元、頭に座布団を被る
3	トイレや押入など、柱が多く、安全そうな所に避難する
4	火の元の確認、柱が多くて安全だと思うのでトイレに避難、扉を開ける
5	外(畑)に出る
6	頭の保護、最低限の持ち物、貴重品、薬
7	危険を避けて避難すること

表2 防災に関する情報、防災知識を何から得ているか

	テレビ	広報誌	新聞	ラジオ	雑誌	経験	家族の経験	自分の経験	知人の経験	聞いて	人から	インターネット	その他
1 男	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	
2 女	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○	×	×	
3 女	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	
4 女	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
5 女	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
6 女	×	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	訓練
7 男	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	訓練

次に非常持ち出し品として準備しているものについて質問した結果を表3に示す。飲料水などを含む食料品を準備している人は少なく、タオルや軍手、下着等の衣類を用意している人は半数程度となっている。食料品や衣類等を偏りなく用意している人は少なく、用意していないものについては避難する際に詰め込むという人もいた。しかし、揺れが治まった後適切な判断力があれば良いが、思ったように行動できない場合、または家財が散乱した場合などは避難時に非常用品を詰め込むことは難しいと考えられる。

表3 非常持ち出し品として準備しているもの全てに○

	タオル	軍手	下着	帽子	靴下	毛布	寝袋	飲料水	ビスケット	乾パン	缶詰	インスタント食品	家庭用常備薬	消毒薬	マスク	はさみ	絆創膏	包帯	傷薬	脱脂綿	三角巾	衛生用品	ガゼー	現金	預金通帳	保険証	印鑑	ラジオ	懐中電灯	卓上コンロ	ビニール袋	ラップ	ナイフ	石けん	その他	
1	○																																			
2	○	○																																		
3	○	○	○	○	○			○	○					○	○	○	○	○	○	○	○															米砂糖 風呂敷 手拭い
4	○	○	○	○	○			○	○																											
5																																				
6																																				
7																																				

プレアンケートの結果、子供や孫などの家族と同居している高齢者は、地震に対する危機感が少なく、自宅の倒壊や自身が怪我を負う危険性や可能性を低いと考える傾向が強く見られた。よって、家族と同居している高齢者には今後、自助の意識を高めることが必要だと考えられる。

§ 4 ヒアリング調査より高齢者の防災意識と対策についての特徴

葛飾区と練馬区の2カ所で行ったヒアリング調査の結果を基に高齢者に共通した防災意識や対策の特徴を表4に示す。

持ち出し品の中身は様々で、飲料水や食品、懐中電灯やラジオなど、自分が持ち出せる量を用意している人、必要とされている品目のほとんどを用意している人、飲料水以外は特に用意していない人、現金や保険証のみを用意している人などである。

葛飾区立石の調査結果では、「高齢だから助からなくてもいい」、「高齢だから助からないだろう」という意見が多かった。全体的に助かろうという気持ちはあまり強くみえず、気力、体力、行動力、判断力の低下も要因の一つと考えられる。

また、2地域とも、「取りたいと思う行動が、思うように取れない」と考える傾向にあった。「火の元の確認」「逃げ道確保」など、取りたい行動はいくつもあるが、身体が吐嗟に動かない、足腰が悪い、身体が弱いという理由がその要因であった。またすぐに動けない、慌てやすい、腰を抜かしてしまう、頭が真っ白になるなど、吐嗟の出来事に対し、迅速な行動が取れる可能性が低く、それによって自身が助かる可能性も低くなるという考えがみられ、「高齢だから助からなくてもいい」、「高齢だから助からないだろう」という意識に影響を与えていると考えられる。その他、古い木造住宅や古い集合住宅に住んでいるなど、住んでいる家の耐震性に対する不安感も、助からないのではと考えてしまう理由の一つと考えられる。

災害時における通信手段や情報交換に対する意見としては、高齢者における携帯電話の普及率はそれほど高くないため、通信手段を持っていないことが、被災時の不安感を高めている傾向もみられた。このように被災時の通信及び情報交換に関する不安も多くの意見が挙げられている。

訓練で教わったことがいざという時に役に立てばいいという人と、訓練と現実とは違うので意味がないという人とに分かれた

§ 5 まとめ

調査の結果を総合的にみると、高齢者は非常持ち出し品などの準備など、何かしらの備えをしている人は全体的に多かったが、「助かろう」「助かりたい」という意識は低い結果であった。身体の衰えに加え、気力、行動力、判断力等の低下などが高齢者の自助意識を低下させる要因の一つである。高齢者に対しては、身体面の対策のみでなく、精神面の対応も重要であることがわかった。

表4 高齢者の防災意識と対策についての特徴

非常持ち出し品についての特徴
多くの高齢者が非常持ち出し品を準備していた
持ち出し品の中身は差が多く、20品目以上準備している人もいれば飲料水のみといった人も多かった
持ち出し品を準備していても、持ち出せるかはわからないと考えている人が多かった
持ち出し品の準備そのものを無駄と考えている人も少なくなかった
自宅で行っている防災対策について
耐震補強や家具の耐震止めを行っている人は少なかった
ほとんどの人が古い木造家屋に住んでおり、自宅や回りの家の倒壊を心配していた
耐震補強されている家に住んでいる人は、建物の倒壊はほぼ心配していない傾向があった
耐震止めは行っていないが、寝室に倒れる家具を置かないまたは倒れそうな家具を移動したという人も数名いた
大抵、地震が起きたとき取る行動についての特徴
机の下に潜る、トイレに逃げる、布団・座布団を被るなど身体を守る人が多かった
火の元を気にする人は多く、特に女性に多い傾向があった
ドアや窓を開けるといった、逃げ道を確保するという人が多かった
特に行動は取らず、その場で地震が治まるまでじっとしているという人も数名いた
大きな地震が起きた時に取る行動についての特徴
火の元を気にする、逃げ道を確保するという人が多い傾向にあった
自身の体を守るという人が多かった
こう行動したいと思っても、実際には何もできないと思っている人が多かった
高層階や集合住宅に住む人に、簡単には逃げられないと思っている人が多い傾向にあった
大きな地震が起きた時に心配なことについての特徴
助けがすぐに来ないのではないかと心配する人が多く、特に独居高齢者に多い傾向が見られた
建物の倒壊や火災を心配する人が多かった
足腰が悪い、慌てやすい、頭が真っ白になってしまうなど、すぐに適切な行動が取れないのではと思っている人が多く、身体的・精神的問題を抱えている人が多かった
離れて暮らす家族の安否や、情報交換が中々できないことを不安に思っている人が多い傾向にあった
地震に対して思うことについての特徴
大きな地震が来るのは仕方ないことだと考えている人が多い傾向にあった
高齢なので死んでしまっても構わない、または高齢なので助からないだろうと考えている人が多かった
いつ来てもおかしくないことなので、あまり地震や防災については考えていない、興味がないという人も少なくなかった
避難場所についての特徴
多くの高齢者が自宅の近くの避難場所を知っていた
避難場所を知っていても、いざというときにそこまで行けるかはわからないという人が多かった
家が耐震補強してあり、避難する必要はないと考えている人もいた
避難訓練についての特徴
多くの高齢者が避難訓練に参加していた
訓練の内容については防災訓練よりも火災に関する訓練が多かった
町会の役員やマンションに住んでいる人の参加率が高かった
訓練で教わったことがいざという時に役に立てばいいという人と、訓練と現実とは違うので意味がないという人とに分かれた